



校長室だより

第 1 3 号
令和3年6月22日(火)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

学びつづける子ども ～「聴く」について考える～

本校の目指す児童像「ぬまっこ」の2番目は「学びつづける子ども」です。私は、震災の年度から3年間、宮城県図書館に勤務していました。そこで感じたことは、人は本来「学びたい」という欲求があるということです。子供は「勉強キライ」と口にすることがあります。でも本当は「分りたいな」「どうしてかな?」「もっと知りたいな」という気持ちがあるはず。 「知る」ってわくわくすることだと思うのです。

学校で勉強することで、自分と違う価値観の友達と出会ったり、教えてもらったりして、「そうか。分かった!」「なるほど!」と思えることが大人以上に多いのが子供です。子供は先生や友達から教えてもらうことの方が、大人に比べると断トツに多く、話を「聴く」ことがとても大切であると私は思っています。

本校の子供たちは、しっかりと話を「聞く」ことはできています。聞こえてはいるけれども、理解しようとしているかとなると、少し弱いのではないかと感じていました。

「聴く」とは、相手の言いたいことを理解しようとする事です。もう少し詳しく言うと、相手の情緒的要素や言葉の意味を理解しようとする事です。話している人の気持ちを考え、共感したり、ちょっと違うぞと思ったりしながら、「相手の言っていることをもっとよく知りたいな」と思うことです。

例えばテレビを見ている時に、自分にあまり必要のない情報は、「聞いて」います。しかし、自分が興味をもったり、関心があったりすることになると、その情報は「聴いて」いることになります。「聴いた」ことで理解も深まるのです。

ある学校の1年生の学級通信の一部を引用させていただきます。

(前略)「話は、どこできくのでしょう?」という問い掛けに対して、「耳です」と答える子供たち。するとある子が「目です!」と答えてくれました。そして、「心です!」という意見もありました。「その通り。話を目できくと、耳からちゃんと話が入ってきて、心にしっかり届きます。そうすると、どんどんかしくなりますよ

。」という話をすると、子供たちは目をしっかりとこちらに向け、心に届けようと一生懸命話をききます。

(後略)

とてもすばらしいなあと思いました。

人の話をただ「聞き流す」ことは、とてももったいないことだと思います。自分と価値観が違ういろいろな人の話を「聴く」ことによって、新しい発見をしたり、違う考えから、さらに調べてみようと思ったりすることができますね。 学力向上の基本は「聴く」ことだ、と私は声を大にして言いたい。新しい時代を生き抜く子供たちにとって、「聴いて」「発信する」力が求められています。

相手の話を「聴く」ことで、しっかり受け止め、相手の話に対して、賛成なり反対なり自分の意見を発信する。それを相手に「聴いてもらう」。こうやって学びつづける子供を育てていきたいと思えます。